

## 第6回入間市指定管理者候補選定委員会会議録

- 1 日 時 令和4年9月30日（金）13時15分～14時40分
- 2 場 所 入間市役所 B棟 5階 第2委員会室
- 3 出席者 委員長 濱川敦  
委 員 岩田正博、浅見泰志、浅見嘉之、高梨雅樹、小林由利、中林敦子  
所管課 博物館長 澤田和也、主幹 津久井浩一  
事務局 企画部次長 栗原康友、デジタル行政推進課長 糟谷寿孝、  
主幹 齊藤謙治、副主幹 齋藤謙次郎
- 4 欠席者 なし
- 5 対象施設 入間市博物館
- 6 議 事

### 議 題

#### (1) 応募者によるプレゼンテーション

プレゼンに先立ち事務局から、次の説明を行った。

応募法人の資格要件のうち暴力団関係者の有無について、事務局において県警に照会したところ、応募のあった法人について、「該当は無い」との回答を得ている。

プレゼンについて、1法人あたり50分とする。時間配分は、プレゼン25分、質疑応答25分とする。仮にプレゼンが20分で終了した場合には、質疑応答を5分増やし、30分とする。質疑応答が早く終了した場合、50分に達していなくてもその時点で終了とする。

採点等については、5～1点の5段階で採点を行い、審査票は、10月7日までにデジタル行政推進課へ提出願いたい。

#### いるまミュージアムパートナーズ

応募書類を基に入間市博物館に関する提案内容の説明の後、以下の質疑応答があった。

委 員：先ほどプレゼンでも説明いただき、前回の5年前の時も提案のあった西武グループとの連携について、コロナ禍での関係もあり、毎年はちょっとできていなかったと思うが、同様な案件を考えていくのか。また、これまでの5年間は単発的に終わった印象だが、頻度をどれぐらいに計画しているのか教えていただきたい。

応募者：西武グループ、特に球団とは、初年度に一応展示会をさせていただき、その後、キャッチボールイベントといったものを実施してきた。それ以外にも市が西武ライオンズのフレンドリーシティである関係の中で、様々な球団のコンテンツを、今後も引き続き実施をしていきたいと考えている。今までできなかった理由としては、球団に、色々とアクションをかけたところもあるのだが、球団側はフレンドリーシティとして県内の多くの自治体と締結しているということもあり、毎年

ではなく順番に実施という回答であった。次期の2期目は、定期的に確実に実現していきたいと考えている。

委員：博物館の場合は、指定管理者と、市の直営部分が一緒に運用しているというのが大きな特徴であり、一番大事なのはその指定管理者と直営部分の連携ということになると思う。その連携についての考え方、役割分担と連携する部分と両方あるかと思うが、これから5年間でその部分についてどのように考えるかお聞かせいただきたい。

応募者：この5年間の間においても、職員の方々とは、やはりこの同居型という部分が、我々も初めてであり、市の方でも初めてと伺っており、手探りの中でやってきた。現場の職員に話を聞くと、やはり市職員が常にそばにいるということで、我々だけでは判断に迷うときに様々なアドバイス等をいただけることが、とても心強く思っている。今後はやはり、せっきくの同居型であれば、役割を我々が企画し、なおかつそこに市職員の学術的なものや学芸員の今までの経験等を、融合して、やっていきたいと考えている。このあたりを2期目は積極的に働きかけていければと思っている。

維持管理における市職員との連携については、弊社の他の指定管理施設だと、担当課とは遠い関係にあり、修繕の方法や運営状況、クレームの対応等を、毎月1回の定例会議で対応しているが、アリットにおいては、修繕等の事象が発生したら、すぐご報告させていただき、毎週開催の調整会議で承認いただいてスムーズに修繕に対応することができる。先日、茶室の青丘庵の看板を修繕したが、弊社としても、以前から懸念事項として挙げており、業者に依頼すると、何十万円とかかるところを、今回、市職員にご紹介いただき、NPO法人や学校の生徒、まさに市民の方に直していただくということが実現できた。我々民間だけではできないそういう市のネットワークを活用することができる機会となったため、今後も市と密に連携して、老朽化対策に取り組んでいきたいと考えている。

委員：先ほどご提案あった学びの入口事業なども、そこから発展して、博物館の事業の方につなぐということを考えていると思うが、ぜひ連携については、よく考え取り組んでいただければと思う。

委員：提案いただいた指定管理料について、市が示した指定管理料の上限額を、令和5年度から7年度は下回っている。市としてはいいことではあるが、その理由を教えていただきたい。

応募者：上限額が決まっている中で、どうしてもその中で調整をしていくが、どうしても人件費が、やはり年々上がっていくというのがあり、それを考慮すると、最終年度に合うように上げていくような形になることが主な要因である。

委員：にぎわいを生み出すために、ミュージアムショップによってそれを作り上げていくという説明であったが、応募資料によれば平日は無人化とのことであり、専属

職員を配置しないとのこと。確かにコストの部分とかがあると思うが、にぎわいを生み出すというのならば、必要なのではないかと思う。人員を配置しないことでのにぎわいづくりはどんな形で考えているのかお聞かせいただきたい。

応募者： おっしゃる通り、本来であれば、人を配置しながらやっていくというのが、理想的ではあるが、土日祝日とか繁忙期に関しては人を置いてもちろんやっていく。ショップに専属の職員がいなくても、例えばワークショップなどをやる時は当然人を配置して、休憩コーナー等を作り、その辺りのにぎわいを作っていくことができると思う。その時には、もちろんショップの販売品目のアピールであったり、そういったものをうまく活用して、ワークショップをやったりしながら、にぎわいを作っていきたい。私たちも試行錯誤して、本当は人を置いた方がいいなと思いつつも、そうすると、現実的に経費が収まらないということもあり、そういう形で上手く既存の職員を使いながらやっていく方法を考えていきたい。

委員： 博物館の入口ということなので、その導入の部分としてもやはりにぎわいとか、入ってみたいとか、そういう部分は非常に大事かと思う。今回初めてこの指定管理の部分に加わった業務だと思うので、手探りをしていく部分も多いかと思う。やっていく中で発展していくことを期待させていただく。

この5年間、指定管理を受けていただき、想定していたことと違っていただけや課題について、初めて指定管理で受けた貴社だからわかるようなことがあれば聞かせていただきたい。

応募者： 博物館の指定管理に入らせていただき、まず初めにわかったこととしては、今までやっていた職員の方々または、パートがやっている仕事が、仕様書だけでは読み取れないところというのは実は多々あった。それを職員に教わりながら、やっていき、今や5年目でできてきたかなといったところである。あとは我々が企画する事業の部分で、この入間という場所柄、または、博物館の建っている場所が、私どもの指定管理をしてきた場所とは様々な違いがあり、広報等で効果があるところとないところがあると感じた。事業については、やはり様々な市民はこういったものに興味があったのかということが、事業をやる中でいろいろと発見ができた。これを次の機会に、さらに伸ばしていければと考えている。

施設管理の部分からでは、やはり、職員ともども苦労した部分が老朽化という部分である。故障が頻繁に起きるといことは、やはり苦労した点であり、もともと壊れているもの、法令で指摘されているもの、また今後壊れていくものをまず、指定管理が始まってから整理しておき、これをいかに維持して、運営に支障がないように継続することに本当に注力してきた5年間であった。例えば、冷温水発生機が2台のうち1台が故障してしまい、熱交換機の詰まりが原因となって循環しなくなってしまった。すると今度は、もう1台の方が今年に入り冷媒ポン

プの一部が壊れてしまった。梅雨前のこれから暑い時期であったが、冷媒ポンプを移しかえるような工事をしてなんとか夏を乗り越えることができた。こういったことを現場と会社側、さらに市職員と相談しながら、何とか維持していくことができてきた。大変ではあるが、これからも注力して頑張っていきたいと考えている。

委員：事業計画書の勤務体制の表を見ると、受付担当職員や、施設貸出職員が1名体制ということかと思うが、受付が1人となると、きちんと休憩がとれるのか、また年次有給休暇の取得はできているのかを確認させていただきたい。

応募者：勤務体制表は人数ということではなく、そのポストに人を配置するということであり、もちろん3名体制等で、休憩等ができるような形で配置している。また、ショップの方も、土日祝日と表記しているが、平日でも団体さんが来るとかそういったものが事前にわかっているときは、もちろんショップの方も開ける。その時には、3ポストを4人又は5人で回すといった形で考えている。

委員：勤務体制表の配置人数はマックスの人数で、この人数でまわしていくという理解でよろしいか。

応募者：はい。

委員：今回の資料の前に第三者評価を見させてもらった。その評価の中で、指定管理が始まってから赤字が続いているということが書かれていた。コロナがあったりとか、集客が減ったりとか大変かとは思いますが、具体的にどの辺のところで苦労して赤字になっているのかがわかれば教えていただきたい

応募者：もともと我々が、事前に提案をした時点では、ある程度事業に対しての収入とといったものを想定していた。ただ、実際にやっていく中で、コロナもちろんあるが、たくさんの方に来ていただくということで、もともとの入場料設定を、当初の提案の時よりも少し下げて、来ていただくということに重きを置いた結果、収入が少し減ってしまったといった部分もある。また、人件費の部分で、最低賃金とか様々なものが高騰していったというところもある。あとはやはり業務をする中で、当初想定していたよりも業務量が増えていったときに、企画をするにはマンパワーが必要になり、想定以上の人件費もかかっていたというのが実情である。大きく考えてその2点のところ、赤字が出た要因かと考えている。

委員：誘客の関係で私が気になったのは、ICTを活用した取り組みの中で特に目を引いたのがYouTubeチャンネルである。これについてももう少し具体的にどうやっていくのか。またICTをさらに充実していくということだが、もう少し詳しくご説明いただきたい。

応募者：ICTの活用というのが今、どこでも求められることになっている。YouTubeチャンネルというのは、弊社も他のスポーツ施設では、YouTubeで動画配信というのをすでにやってはいるのだが、文化施設の方ではまだやったこと

がない。今回いろいろ考えていく中で、広報誘客という部分でまず、止まった情報で誘客を図るよりも、動きのあるもので目を引いて、訴求を高めていくのがいいのではないかとということで、Y o u T u b e が上がってきたというのが要因である。実は隣の狭山市立博物館ではY o u T u b e チャンネルを実際にやられていて、どういう形で運営されているのかをお聞きした上で、提案させていただいている。やはり技術的なものが必要になるため、まず技術的な支援を狭山市立博物館やエフエム茶笛に業務委託としてお願いし、市が作成するY o u T u b e とは重ならない形で、例えばお茶の作り方や入間市の歴史の一部を、わかりやすく説明することを配信していくのがいいのではないかと考えている。頻繁につくれるものではないと思っているが、年間に数本程度作って、アップしていくことを、今のところは考えている。

委員： 広報誘客においてランディングページを作成するというところで、今までの情報発信がバラバラであるところをまとめるという話かと思うが、利用者サイドとしてはそのランディングページがどんなふうに見えるものか、どこから入ってどこに繋がるものかを説明いただきたい。また、外部の目から見て、どのような点で今までの情報発信がバラバラだと感じられているのか。

応募者： まずランディングページに関しては、例えば、ツイッターとかインスタグラムであるとかのSNSで発信するときに、必ずランディングページにアクセスできるようバナー等の仕掛けが必要と思っている。ランディングページではイベント情報やショップ情報等に特化したページを作り、そこからイベントに参加してもらう、または来館に繋げるという、直接的に繋がるようなイメージでいる。そういったページをホームページとは別に作り、そこからホームページにも繋がる形で広がっていくようなことを作りたい。

また、情報発信において、アリットに限ったことではないが、自分たちが知らないところで、博物館の情報が発信されているということが実はあるので、そういうところにもアンテナを張り、それらを集めていくということ、やっつけていかなければいけないと思っている。

補足として、市のホームページにも博物館のページが、博物館のホームページとは別にあり、その他の情報として市の公式フェイスブックに博物館のページがあり、指定管理者でもツイッターやインスタグラムを発信している。それぞれ発信していることがうまく接続できていない。Y o u T u b e チャンネルについても、市職員が出ているページが配信されており、市の公式チャンネルから、見ることができるが、入口がたくさんある状況であることから、ランディングページを作成し、情報を集約したいと考えている。

委員： 来場者数8万人を目指すということで、すごく前向きに目標設定していただきありがたいが、今博物館に来る来場者の方たちの、一番の目的別の内訳を把握され

ているか。

応募者： 来庁者の目的は、2つあると思っており、博物館の常設展という、市の歴史とかそういったものをご覧いただく方と、特別展などの事業や展覧会等にこられる方に分かれる。さらに、外にある館庭に散策に来て、館内を利用するかトイレを借りるといったこともあると思っている。質問と違うかもしれないが、市職員の方も一生懸命今後の展開として考えているのは、私どもの事業に来た方が、いかに常設展に入っただけかということである。要は博物館に来た方が、1つの目的だけでなく、常設展含め、全てのものをご覧いただくといったところに注力していきたいと考えている。

委員： 先ほどご説明いただいた広報誘客というところに結構リンクしてくるのかなと思っており、要はどこにターゲットを絞って、どこにどういう手段でプッシュしていくかというところに関わってくると思うので、そういった分析も必要と思った。

管理運営費の関係で、収支計画書では、施設の定期点検や修繕分として約4200万で計上していただいている。市では正しいかどうかは別として約5000万を見込んでおり、800万ほど安く見積もっていただいているが、これだけ安くなる理由は何か。先ほどの説明でも施設が老朽化しているということでもあり、不測の事態も相当見込まれる可能性があることを考えると、多少余裕を見込んでいた方がいいのではと思う。800万ほど安いということは、他の費目に振り分けていることになると思うが、この計画で問題ないかについて改めて確認をさせていただきたい。

応募者： 前は、24時間警備を委託でやっていたが、今回の提案では、委託の見直しをすることにより、それなりの額が削減できた。大丈夫かと言えば、もちろん、最低限のところで行っていく中で工夫していこうということで、こういった価格設定で積算している。

補足すると、維持管理部分の保守点検について、これまで5年間委託させていただいた業者に協力いただき、長期契約ということで、5年前とほぼ同額での積算が可能となっている。ただ、シルバー人材センターに関しては人件費が上がっており、事務手数料も入るが、その部分は見込んだ上での金額となっている。

委員： 最後に、現在指定管理をやっていただいて、今4年半ぐらい過ぎたところと思うが、先ほどの想定外の課題もあつたりとか、赤字の部分もあつたりとかそういったお話もいただいたが、今回改めて、もう1回手を挙げていただいた、その判断の一番率直な理由についてお聞かせいただきたい。

応募者： 今回2期目の提案をさせていただいた理由について2点ほど述べさせていただく。1つ目は、1期目の5年間は、コロナというこれまで我々も経験したことがない中での運営でいろいろ大変だった部分もあり、この2期目において、そうい

った経験をさらに次のところで実現をしたいということである。またもう1点として、もちろん、我々も企業であるため、収支のところはしっかりと考えながらやるが、今回の市による指定管理料の積算が、しっかりと考えていただいた点が、我々が参加できた要因となっている。

事務局：以上で質疑応答を終了とさせていただきます。

## (2) 委員からの講評

委員長：応募資料および本日のプレゼンテーションを受け、各委員から意見、感想があればお願いしたい。なお、あくまでも採点は各委員の自己判断が大前提となるが、専門的な見地から述べておきたいことや、相互確認しておいたほうがいいことなどがあれば述べていただきたい。

委員：人員のことを質問させていただいたが、ミュージアムショップへの人員の配置が難しいところを鑑みると、ややタイトな感じなのかなという印象を受けたが、一方で5年間の経験を踏まえた配置ということかと思うので、特に問題はないのかなと思った。また、全体的に提案が盛りだくさんであり、この通り実現すれば素晴らしいと思っている。進捗を所管課の方でしっかり見ていただきながら、やっていかれるといいのではと感じた。

委員：財務面でいうと、収支計画書等を見ても問題ない範囲内かと思う。広報にかける経費についても、いっぱいかければかけるほどいいかというわけでもないため難しいところはあるが、もう少しかけてもいいのではと感じた。中味としては問題ないと感じる。

委員：自由提案などに入っている事業提案というのが、思ったよりは、今と同じかなという感じが正直なところである。ここに載せられている以外にも、これまでも指定管理者の個人的な繋がりや芸大とか、東北との繋がり等でイベントをされてきているものの、そういったところには反映されていないので、この提案自体は、少しフラットな感じを受けている。ただ先ほど説明があったYou Tubeや入間市検定等の新たな提案は、誘客に繋がる可能性があると思った。

委員：教育関係の連携っていうところでは、例えば広報誘客の中で各博物館との連携が載っている。この中で民間施設である角川武蔵野ミュージアム等との連携もちゃんと組み立てられており、一例ということだが、こういった民間の博物館との連携がしっかりできるといいなと期待している。また、青丘庵の利用について、お茶の専門家からするとそこを頻繁に使ってもらったら困るというのがあるかもしれないが、博物館の有効活用というところでは、ここを使って何かプレミアム感があるようなことができるといいのではないかという印象をもった。

委員：最初の5年間でそろそろ終わるというようなところで、市の直営部分と、指定

管理者の管理運営する部分と、両方が併存しているというこの5年間の実験的な取り組みだったのかなと感じた。いろいろ課題があったという話もあったが、それを受けて、また次の5年間を取り組みたいという意欲も言っていたので、最低でもあと5年やっていただくことで、さらに良くなっていくことを期待している。具体的な取り組みとしては、様々な課題はあるかと思うが、職員と一緒に取り組むことで、うまく相乗効果を上げていっていただきたい。

委員：あえて聞かなかったが、自主事業の計画書を見ると、にぎわい事業や学びの入口事業でやればやるほど赤字が増えていくという提案であり、収益を目的としないと明記していることが、すごく気になっている。本当に指定管理がいいのか、それとも違う手法で博物館の運営管理を見直していくべきか、といった視点を持っていかないと、事業者からもう無理だと言われた時に、次の指定管理者がいなくなってしまうのではないかと考えている。上手く自主事業で利益が出て、そういうところが業者にとっての魅力として実入りがちゃんとできるような体制をとっていかないといけないのではと考える。そういった意味でさきほど、やってみて想定外だったことや課題を聞いたのだが、自分が想定してたような答えしか返ってこなかった。では何が原因でこういう状態なのだろうということが、わからなかった。

委員：これまでの5年間はまさにコロナの時期と重なってしまい、これは我々にとってもそうだし、指定管理者側にとってもそうだが、いわゆる平常な状況での5年間ではなかったもので、そういう意味ではこの実績は評価しづらいところではある。おそらく来年からの5年間は、平常時に近い時期になるのではと思うので、まさに次の5年間は、腕の見せどころなのかなと思っている。いずれにしても博物館自体は、個人的には館庭も含めて、非常に質の高い施設だと思っている。ただいかんせん、市内から行くにしても市外から行くにしてもアクセスという点に課題があるような場所でもあるので、そういう中でいかに誘客、8万人という目標も立てていたが、本当に多くの方に来ていただけるのかということに次の5年間は着目したい。また、維持管理や修繕に関しては安易に外部に頼るのではなく、指定管理者の直営でかなり対処していただいているが、責任感を持って前向きに会社としてリスク削減を図っており、個人的には結構評価してもいいのではないかと感じた。

委員長：他に確認したい点等なければ、委員からの講評は以上とする。

### (3) 博物館からの意見・感想

委員長：所管課として意見、感想があればお願いしたい。

所管課：これまでの5年間を振り返り、博物館の役割である資料の収集・保管・展示及び調査研究については、学芸員が継続的に担うことにより、博物館の使命である「地



域」に関する調査研究が引き継がれている。

施設の管理運営については、指定管理者の民間事業者のノウハウを活用した事業展開により実施されている。

来館者増加の取組みでは、これまで博物館に来館していない年齢層が来館する様な取組みが広がっている。また、第三者評価の結果からも、管理運営面、施設管理面共に高い評価を得ていることは、客観的な視点からも評価できる内容である。

更に2期目の提案では、これまでの効果的な取組みについては、継続又は内容を拡充した提案がされており、事業見直しにより効果が見込める取組みについては、これまでの成果を分析した新たな提案がされていると感じている。

更に、来館者がワクワクする様な賑わいを創出する提案が盛り込まれていることから、魅力ある博物館の実現に向けて、同居型のメリットを活かした連携を図ることで、これまで以上の成果を期待するものである。

入間市博物館基本計画〔第2期〕の運営方針で位置付けている「つなぎ、つたえる博物館」、そして、博物館の将来像として定めている『市民の「心のよりどころ」となる博物館』その実現に向けて、1期5年間の実績を活かして、民間事業者の専門的なノウハウやネットワークを活力して効果的、効率的な事業運営や経験とスケールメリットを活かした効果的な施設管理の取組みが提案されていることから、継続して管理運営を任せられる事業者であると考えている。

## 7 その他

審査票の提出と次回の日程について

10月7日（金）までに審査票をデジタル行政推進課に提出していただきたい。次回の第7回は入間市児童センターに係るプレゼンテーションを10月3日（月）に開催する。委員全員が出席する委員会は10月13日（木）に開催予定である。

以上